

事業計画

事業名	地域まるごとで孤育を予防する連携システム事業
団体名	まっどでつながるプロジェクト運営協議会
事業担当課	子ども政策課

事業概要

核家族、経済的貧困、一人親、子・親の障がいを抱えた世帯など、子育てにおいて困難を抱えながら地域で孤立し、支援につながりづらい家庭が、官民の連携により必要なサポートにつながる可以实现する。

松戸市の課題

核家族化、経済的貧困世帯、ひとり親世帯の増加、子・親の障がいを抱えた世帯、外国人家庭など、子育てにおいて困難を抱えながら地域で孤立し、支援を必要とする家庭が増えている。一方で、そういった家庭に関わる支援者や何気なく地域に関わる人間関係が豊かに増えているとは言い難い。

(関連する課題の例)

●松戸市における虐待の相談対応件数は約 10 年で約 4 倍に増加 (2011 年度…年間 310 件 ➡ 2022 年度…年間 1404 件) ※こども家庭センター資料

●小学生～中学生の子どもの約 4 人に 1 人が生活困難層 (困窮層・周辺層) (小学 5 年生…困窮層 7.3%・周辺層 16.2%、中学 2 年生…困窮層 8.9%・周辺層 16.2%、ひとり親世帯にしばると約半数が生活困難層) ※2019 年 3 月松戸市子育て世帯生活実態調査より引用

(2022 年～2023 年度の協働事業で実施した円卓会議で挙げた課題感)

●予防的アプローチの重要さと連携することの難しさ

・自ら手をあげづらい方や、地域や支援とつながっていない方に対して、課題が深まる前に関わるのが重要ではあるが、なかなかそこに一歩踏み込むことが出来ていない現状が共有された。

・上記に対して行政、民間それぞれの多様な窓口やつながり方ができると良いが、対等な立場で意見交換できるような場が少なく、そういった点において地域円卓会議のような場がますます必要になっている。

事業の目的

本事業では、子育て～子どもの成長を取り巻く負の連鎖の予防・緩和・解決に向けて、行政と民間団体、企業、地域住民が協力し合うことのできる仕組みづくりを目的とする。

その中で特に、官民それぞれの支援者間の連携を促進するための地域円卓会議の推進と発展、および日常生活の中で子育てに寄り添うことができる市民サポーターの育成と地域で活躍できるネットワークづくりを目指す。

●地域円卓会議の目的…主として対象年齢ごとに関わる行政・民間それぞれの支援者が集まり、現状の取りこぼされている課題について共有し、対話する中で相互の連携に向けた関係づくり、および解決に向けて検討する。

●市民サポーター育成の目的…資格を伴う専門職ではなく、一般市民の中で日常的に子育てを見守り、あたたかい声掛けができる市民サポーターを増やすことで、地域の網の目を細かくし、孤立を予防する。

事業内容

① 子育て当事者の声を真ん中にした地域円卓会議の実施

- ・行政・福祉専門職・子育て支援 NPO・子ども食堂など、子育てに関わる多くの機関や団体が集まり、子ども・子育て当事者が置き去りにされない議論、本質的な子育てしやすさを目指す組織間連携を生み出す。
- ・個人個人の相互理解を育むことを基盤に、それぞれが持っているピース（資源）を持ち寄り、支援とそれを必要としている人が適切につながる体制を生み出していく。具体的には参加者の活動内容や情報を共有するためのツール（メーリングリスト、WEB サイト、冊子など）の運用を進める。
- ・3 年目では参加者へのヒアリングやアンケートを通じて、これまで実施してきた成果を検証し、今後の継続に向けた論点を整理する。特に 2 年目から行っている検討ワークショップで話し合った内容について、その後どのような変化が生まれたかを検証する。

- 円卓会議について、参加者は 30 名程度で年間 3 回を予定
- 取り上げるテーマの例（乳幼児期、児童期、青年期）
- 円卓会議で挙げた具体的なテーマについて、さらに踏み込んで検討する場づくり（検討ワークショップ）を円卓会議後に各 3 回行う。

②孤育てを予防する「子育て市民サポーター養成講座」の普及

- ・地域との関わりの薄い子育て世帯が、妊娠時期より何気ない日常の中でつながりを持ち、必要な支援や制度にたどり着くことができるよう、声掛けやお手伝いできるボランティア養成と活躍できる場とのマッチングを目指す。
- ・普段の生活の中で子育て世帯に対してあたたかく支えられる地域人材を増やす養成講座を中心として、すでに本市で取り組まれている子育て支援に関わる事業や地域活動におけるボランティアの紹介などを行っていく。

- 2 年間の実施を踏まえて、本講座では地域で何か子ども・子育てを支えていきたいという気持ちを持っている市民が一步踏み出すきっかけを作ること主なねらいとし、広く周知・普及することに取り組む。
- 気軽に参加できる講演会を 1 回、またより深く学びたいという方を対象とした連続講座を 3 回実施する。

①②に共通する事項

- 実施により得られた成果を地域に共有することを目的として、外部のレポーターによる記録の可視化（グラレコ等）に取り組む。

年間予定	地域円卓会議	市民サポーター養成講座
共通	実施体制：構成員 対象：官民それぞれで子育て支援に携わる方 場所：松戸駅周辺公共施設	実施体制：構成員 対象：子育て支援に関心のある一般の方 場所：松戸駅周辺公共施設
4 月	年間予定、テーマ検討	年間予定の検討
6～7 月	★第 1 回開催～ふりかえり	カリキュラムの見直し
8 月～9 月	検討ワークショップ	講演会企画の検討
10 月	★第 2 回開催～ふりかえり	↓ チラシ作成～配布
11 月	検討ワークショップ	講演会の実施～連続講座
12 月	★第 3 回開催～ふりかえり	実施のふりかえり
1～2 月	検討ワークショップ	

事業の目標	○地域円卓会議の開催…年 3 回の実施（延べ 80 名の参加者を目標とする）。また検討ワークショップを最低 3 回実施し、実践につながる事例を目指す。 ※2022 年度の検討ワークショップで挙げられた例としては、行政・民間の支援者が合同で学び合う勉強会、ケース検討会の実施など。 ○市民サポーター養成講座および講演会の実施…子育てを街で支えることを幅広く周知するための講演会（年 1 回）は参加者 50 名の集客を目標とし、連続講座（年 3 回）は受講生 20 名を目指す。
協働の必要性 （団体）	・子ども食堂や子どもたちの居場所づくりをしている民間の活動において、地域で出会うことができた困難を抱える家庭に対して、行政の支援が必要だと感じた際に、つなげる先が不明であったり、顔が見えていない関係で情報共有しづらいといった課題があるため、円卓会議のように開かれた場で支援者同士が対話できる機会が必要である。 ・協働事業で進めることによって、行政機関に参加してもらいやすくなることを期待する。また市民サポーターの募集にあたって、広報まつどへの掲載をはじめ、広く市民に PR できる連携を図っていきたい。
協働の必要性 （市）	・本市の子育て支援施策においては、解決すべき課題が多様化、複雑化しており、さまざまな主体の参加と連携が必要となっている。現在、民間との連携において、お互いを知る場や情報共有する機会が少ないのが現状である。 ・社会全体で子育てを支えていく機運を高めていくためには、市民の方々の参加が必要となる。子どもと子育て家庭を温かく見守り、必要なときに声を掛け合うなど、子どもや子育て家庭に関心を持つ人を増やしていきたいと、考えている。特にこれから地域で増える退職シニアの参画を促していきたい。
事業実施の役割 分担	団体…民間ネットワークへ声掛け、会議や研修の設計と場づくり・運営 担当課…庁内の各部署との橋渡しや調整、会場の確保、市民への PR
今後の展望	1 年目…官民が信頼関係を築くことのできる場づくり、市民参加を促すための市民サポーター養成講座の構築 ⇒実施済み 2 年目…より開かれた場で多くの支援者が交流することができる場づくり、市民サポーター養成講座の展開（人数拡大）⇒本年度中に達成予定 3 年目…課題の共有から課題解決につなげる仕組みづくり、講座を受講した市民サポーターの活躍の場とのマッチング ※協働事業終了後については、2024 年度に策定予定の第 3 期子ども総合計画における当事業の位置づけを含め、協定書を交わして引き続き官民協働で取り組むなど、方向性を協議していく。 ※参考（第 2 期松戸市子ども総合計画） 施策 11-2 地域の人が子どもと関わる機会を増やす 重点施策 施策 12-2 子どもや子育て家庭に関心を持つ人を増やす 重点施策

事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額（A）	¥ 270,600	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 5,000	団体の会計より拠出
	参加費	¥ 20,000	養成講座参加費（1000円×20名）
	自己資金の合計額（B）	¥ 25,000	
市	協働事業負担金（C）	¥ 225,000	
合計額（D）＝（B＋C）		¥ 250,000	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 170,000	①地域円卓会議レポート謝礼（円卓会議・講演会・養成講座） ①5,000円×5回＝25,000円 ②100,000円 ②外部講師謝礼（講演会） ③15,000円×3回＝45,000円 ③外部講師謝礼（連続講座）
	消耗品費	¥ 11,000	プリンター用インク 2,500円×2セット ワークショップ用付箋など 300円×20個
	印刷製本費	¥ 39,000	資料印刷費（円卓会議） 5円×20ページ×30セット×3回＝9,000円 チラシ印刷（養成講座） 5円×3,000枚＝15,000円 テキスト印刷（養成講座） 150円×100部＝15,000円
	委託料	¥ 30,000	デザイン費（講演会チラシ） 30,000円×1回
	対象経費の合計（E）	¥ 250,000	
（その他経費）			
	その他経費の合計額（F）	¥ 0	
合計額（G）＝（E＋F）		¥ 250,000	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金（C）が、対象となる経費（E）欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金（C）が、自己資金（B）欄に労力換算額（A）欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間回数×984円
	円卓会議打合せ	11,808 円	2 人 × 2 h × 3 回 × 984 円
	円卓会議準備	23,616 円	2 人 × 4 h × 3 回 × 984 円
	円卓会議本番	35,424 円	3 人 × 4 h × 3 回 × 984 円
	検討ワークショップ準備	11,808 円	2 人 × 2 h × 3 回 × 984 円
	検討ワークショップ実施	17,712 円	3 人 × 2 h × 3 回 × 984 円
	円卓会議ふりかえり	26,568 円	3 人 × 3 h × 3 回 × 984 円
	養成講座打合せ	15,744 円	2 人 × 2 h × 4 回 × 984 円
	養成講座準備	39,360 円	2 人 × 4 h × 5 回 × 984 円
	養成講座本番	59,040 円	3 人 × 4 h × 5 回 × 984 円
	養成講座ふりかえり	29,520 円	2 人 × 3 h × 5 回 × 984 円
			人 × h × 回 × 984 円
			人 × h × 回 × 984 円
			人 × h × 回 × 984 円
			人 × h × 回 × 984 円
			人 × h × 回 × 984 円
			人 × h × 回 × 984 円
			人 × h × 回 × 984 円
合 計 (A)		270,600 円	